

# 緑区大高学区 震災避難行動マップ

この震災避難行動マップは、名古屋市が公表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」をもとに、大規模地震が発生した場合を想定して、大高学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。  
この震災避難行動マップをもとに、いざという時にどのような行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。



## 避難所一覧

- (1) 大高小学校
- (2) 大高中学校
- (3) 大高地域コミュニティセンター
- (4) 大高学区集会所

## 津波避難ビル一覧

- ① 特別養護老人ホーム大高
- ② ライオンズマンション大高第2
- ③ ライオンズマンション大高緑地
- ④ 中部電力(株) 緑営業所
- ⑤ 名古屋市上下水道局大高ポンプ所

## 役に立つ場所

### 1. 地域防災協力事業所

災害時に地域に対して支援協力をしてくれる事業所です。

### 2. 公衆電話

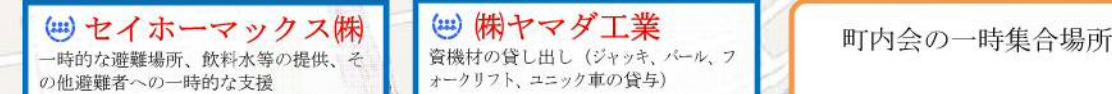
NTTが設置する公衆電話は、災害時には優先的につながり、状況に応じて無料になります。ただし、国際電話は使えません。

### 3. 津波避難ビル

3階以上、鉄筋鉄骨コンクリート造(SRC)または鉄筋コンクリート造(RC)の建物で、持ち主の了承が得られた場合に市が指定します。

## お気づきですか？海拔表示

緑区では、区内で海拔が低く見やすい場所にある電柱・電信柱に、津波避難ビルや避難所の情報を併せて掲載した「海拔表示板」を設置する取り組みを進めています。その他にも区内官公署(所)やコミュニティセンター等に海拔表示を設置していますので、普段からご自宅周辺の海拔を確認し、少しでも高いところへ避難できるよう備えましょう。



## 町内会の一時集合場所

【地域の避難先例】  
各町内会の一時集合場所へ集合し、下記の避難所へ避難しましょう。

### 原則「大高小学校」に避難

田中第1の一部 — 「大高地域コミュニティセンター」に避難  
田中第3の一部、北横峯の一部 — 「大高中学校」に避難

青山二丁目

## 気を付けて!!



⑦ 水路

⑧ 大高川

## 気を付けて!!

### 1. 空き家

耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険あり

### 2. 古いブロック塀

大きな地震では倒壊する危険があるため近づかない

### 3. 狹い道

近くの家が倒壊した時、道がふさがれて通りにくくなる可能性あり



### 4. 急な坂道

足が不自由な方や車イスで避難する方への支援が必要



### 5. 電線

切れた電線は停電時で危険があるので、絶対に近づかない



## 凡例

一時避難場所	広域避難場所へ避難する際、一時的に避難して火災の様子をうかがう場所です。一定の空間を有している公園等を指定しています。
避難所	家の倒壊などにより住居に被災を受けた方、あるいは被災を受けるおそれのある方を、一時的に受け入れ、滞在させるための施設です。
津波避難ビル	津波避難ビル
地域防災協力事業所	地域防災協力事業所
AED(自動体外式除細動器)	AED(自動体外式除細動器)
公衆電話	公衆電話
街頭消火器	街頭消火器
地下式給水栓	地下式給水栓
防災スピーカー	防災スピーカー
WC	下水道直結式仮設トイレ(マンホールトイレ)
学区境	学区境
避難経路の例	避難経路の例
津波浸水想定地域	津波浸水想定地域
土砂災害(特別警戒区域)	土砂災害(特別警戒区域)

# 緑区 大高学区

世帯数：4,914世帯 人口：11,338人 面積：3,360km<sup>2</sup>

※平成31年2月1日現在の世帯数と人口より

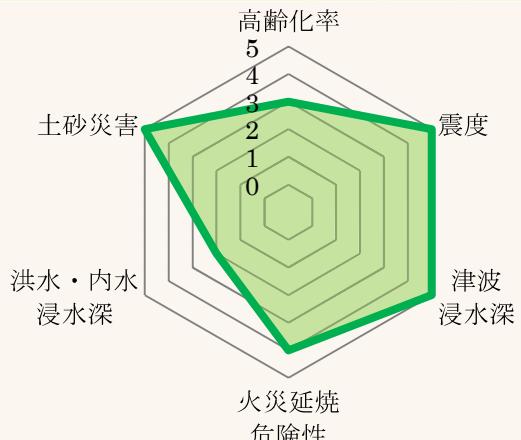
## 特性と災害リスク

南海トラフ巨大地震が発生した場合、まずは強い揺れから身を守りましょう。当学区は津波浸水が想定される地域であり、名古屋港への津波到達時間は最短で96分と予測されており、避難はその後から始まります。この時間を最大限に使い、みんなで助け合って避難しましょう。

火災が発生した場合は、燃えて倒壊する建物が道を塞いだり、強い熱風が吹き荒れる懸念があります。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、泥水が溢れだし、道が通ることができなくなることがあります。これらのこと踏まえ、適切な避難先と、そこまでの安全な経路についてあらかじめ複数考えておきましょう。

## リスクレーダーチャート([STEP1: 地域特性の把握])

	値	5段階
高齢化率	21.3%	3
震度	7	5
津波 浸水深	2.0m~3.0m未満	5
火災延焼 危険性	1,000~2,500棟未満	4
洪水・内水 浸水深	0.5m~1.0m未満	2
土砂災害	警戒区域に 人家100件以上	5



お住まいの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況(密集状況や古いブロック塀など)及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日々から防災・減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用下さい。  
<http://www.city.nagoya.jp/bosaiikiikanri/page/0000110628.html>



## 一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

- まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心に活動します。(安否確認、声かけなど)
- 災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。
- 「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

## 学区の皆さんへ(ご協力のお願い)

- 大人も子どもも年齢に関係なく、ひとり一人が自分の命をしっかりと守れるように、「グラッ」と来た時の対応を身に付けておきましょう。
- 「無事ですカード」の掲出、ご近所での声かけなど、安否確認を迅速に行い、大切な「命」を守りましょう。
- 被害の拡大を防ぐため、自分と家族の安全を確認後、**自主防災活動**に参加しましょう。

## 津波避難のポイント!

津波浸水想定区域内にお住いの方は、大雨警報が発表されたら、津波到達までの時間を使い、出来る限り「高台」へ避難しましょう。要配慮の方や時間ががないなど高台への避難が困難な場合は、津波避難ビルへ避難しましょう。



## 風水害時の行動

### 台風が発生した 情報収集

- テレビ・ラジオ・スマートフォンなどから台風の大きさ・強さや川の水位などの情報を入手

### 台風や大雨が来るぞ!! 準備

- 避難ガイドやハザードマップで指定緊急避難場所、指定避難所や浸水想定区域等の確認
- 家族との連絡方法の確認
- 家の周りの飛ばされやすいものや、流されやすいものの片付け



### 雨足が強くなってきた!! 避難の判断

- 情報収集を続けて、避難開始時期を判断
  - テレビ・ラジオ等 携帯電話・メール 防災スピーカー 広報車等
- 50cm以上の浸水時は避難に危険が伴うため注意
- 自動的に避難する場合には、事前に区役所へ連絡する
- 洪水・内水氾濫の想定浸水深より下の階にいる  
●土砂災害警戒区域にいる  
●堤防の近くで、安全な建物<sup>\*</sup>にいない  
\*鉄筋コンクリート造

どれか一つ以上 該当する 該当しない 自宅などにとどまる

### 避難情報の発令等により避難行動!! 避難開始

- 避難準備 高齢者等避難開始
  - 避難の事前準備をする心構えをするために発表するもの。高齢者や障害者が自主避難を開始する旨案
- ただちに避難!(垂直避難)
  - 指定緊急避難場所までの道が危険な場合は、身近な建物のできるだけ上の階へ・屋外での避難が危険だと感じたら、自宅の上階へ
- 避難勧告
  - 被害が発生するおそれがあるため、避難をすすめるために発令するもの
- 避難指示(緊急)
  - 被害の危険が目前に迫り、生命の危険がより高まったため、避難を強くすすめるために発令するもの

## 土砂災害からの避難

大雨や地震などをきっかけとして、がけ崩れや地すべりなどの土砂災害が発生することがあります。土砂災害には前兆現象がある場合もあります。土砂災害警戒区域では、特に危険性が大きいので、いざという時に適切な避難行動がとれるように考えておきましょう。



### 《土砂災害警戒情報》

大雨警報(土砂災害)発表後に土砂災害の危険がさらに高まった場合に、市町村単位で、都道府県と気象庁が合同で発表

### 《土砂災害警戒判定メッシュ情報》

大雨による土砂災害の危険度の高まりを、地図上で5km四方の領域(メッシュ)ごとに5段階に色分けして示す情報  
(気象庁ホームページで確認できる)



### 《土砂災害の主な前兆現象》

- 斜面にひび割れや膨らみなどの変形が見られるとき
- 斜面から水が噴き出てくるとき
- 水が濁つたり、水量が急に減るとき
- 木立が不揃いになったり、井戸の水が濁るとき
- 斜面から石ころが落ちるとき